

## 学校規模及び配置の適正化に向けた具体的な方策 取組事例

## 《ICTの利活用による豊かな教育機会の充実》

## 【学習活用】

- ・AIドリルと学習用アプリを活用している。
- ・タブレットによる課題の提示や回収を行っている。
- ・それぞれの児童の意見をモニターを通して、友達の考えと比べあう学習を行っている。
- ・タブレットドリルで、一人ひとりの理解度に応じた学習の時間を設定している。
- ・学校の中で児童会活動や委員会活動で活用している。
- ・外国語学習でデジタル教科書を活用して、話す力や聞く力をつけている。

## 【他校及び家庭との連携】

- ・欠席児童等に対するオンライン指導や状況把握を行っている。
- ・ZOOMを利用して他校や他の機関との合同学習を行っている。(校区内外の小学校, 同規模校, 県外の学校, JAXAなどの外部機関等)
- ・Google meetを使って他校とつなぎ, 総合的な学習の時間における職業調べを行っている。

## 《小中一貫教育の充実, 発展とその魅力(特に小規模校)の発信》

## 【小中連携】

- ・小中で「子どもにつけたい力の一覧表」を作成し, 小中9年間で一貫した取組にしている。
- ・小小連携や小中連携で地域を学ぶ教材づくりを行い, 9年間を通した教育課程を作成している。
- ・中学校区で, 定期的に管理職連携や各部会(学力向上部会・生徒指導部会・特別支援教育部会・事務部会)連携を実施している。
- ・小中連携に基づく一貫したノート指導, 自主学習ノートの取組の充実を進めている。
- ・中学校教員が小学校へ出向いて指導したり中学生が小学生を指導するリトルティーチャー等の合同学習や, 小学校児童が部活動を体験するなどの合同行事を行っている。
- ・保育所とも連携して, コミュニティ・スクール設置に向けての準備を行っている。

## 【魅力発信】

- ・学校や児童の活動を「学校だより」「学級通信」, HPで発信している。(全校)
- ・新聞社やTVなどのマスメディアへの取材依頼などを行い, 広く情報発信を行っている。(全校)
- ・学校内だけでなく, できるだけ地域の行事等に参加して児童の活躍をPRしている。(全校)